

# 東北復興 PSW にゆうす

石川での「第49回全国大会・第12回学術集会」は1,254名の方が参加され大盛況のうちに終了しました！運営にあられた皆さま、本当にありがとうございました。「被災3県の事業所製品販売」はほぼ完売！また「ほっとミーティング in 金沢」では支援にあたった方々がその想いを共有されとても有意義な時間となったようです。これらの企画は来年も計画されていますので、埼玉大会にもぜひご参加下さい！東北の地を少し離れ、石川で元気をもって帰ってきました。2年後の開催を予定している福島大会に向けて、皆さまに元気を分けられるよう準備していきたいと思えます。(本部長 菅野正彦)



## 「ほっとミーティング in 福島」開催

前号でご紹介した「ほっとミーティング in 大船渡」に続き、福島市にて同様のミーティングが開催されました。今回はその内容を中心にお届けします。



仙台七夕 H25. 8. 6~8

相馬野馬追

H25. 7. 27~29

盛岡さんさ踊り

来てね！ H25. 8. 1~4

2013年5月18日(土)、福島市内にて精神科医療機関、行政機関、大学、こころのケアセンター、行政、EPA事業所など11名に及ぶ皆さまとともに集いが開催されました。復興支援本部からは、福島県支部長でもある鈴木と同支部の菅野、岡崎(宮城県支部長)、田村(協会副会長)、長谷(事務局補佐)が参加させていただきました。これまでの宮城・岩手とは異なり、原発に関する話題が多くあがるなか、これまで培われてきたネットワークを活かしながら、日々の実践に奮闘されている姿に参加者のこれまでの確かな歩みを感じるとともに敬愛の念を覚えました。以下に内容の幾つかを御紹介します。

- 様々な支援がこれからどのように連携していくかが今後の課題。まずは共有。
  - 被災自治体の自立ということ。どこまで支援者が関わればいいのか。
  - 地元との当たり前の関係、我々が行かなくてもいいような関係づくり、これからの課題。
  - 沿岸部から内陸部に避難し再開した地域の事業所では、スタッフの疲弊が激しかった。
  - 沿岸部への活動をどうしていくのか、バックアップ支援の在り方などが課題。
  - 地域性によって違いあり。風土が違う。支援のあり方が違ってきている。
  - 福島は先行きが不透明、地域格差が顕著に。いわきには相当な数の住民が周囲から流れ込み大変との話も。郡山市では借上げの方が多いが手が回っていない状況。5月から県中でようやくスクリーニングが始まる。
  - マンパワー不足を感じている。職員の疲弊が顕著だが業務量は増え続けている。
  - 賠償弱者(認知症、知的障害、精神障害等)の賠償請求に関する支援を。
  - 失敗も発信していくことも必要ではと感じている。
  - あえてものが言えるワーカーでありたい。そのときにはぜひ助けをいただきたい。
- ～支援者自身が放射能という目に見えない恐怖を抱えながらも、現状の課題を的確にとらえ、「何ができるのか」を真摯に考える姿に心を打たれ、県内外に住む仲間へその声を届けること、そして一緒に考え続けること、関心を寄せ続けることの大切さを改めて実感しました。引き続き、ともに歩んでいきたい、そう感じたほっとミーティングでした。～ ☆次号予告☆ 支援活動に参画された皆様にご参集いただいたたほっとミーティング in 金沢。その様子をお伝えします。

前回紹介しきれなかった四国ブロックの方々からの心温まるメッセージをお届けします。

☆マークは県花のイラストです☆ 徳島(すだちの花)

### ☆ 徳島県代議員 月岡麻美



2年前の3月11日、東日本大震災が起こったことを知ったのは、職場から帰宅した夕方のことでした。テレビに映る現状にただただ驚くばかりでした。職場の上司や先輩が心のケアチームや、ボランティアとして被災地に向かいました。直接支援には行けませんでした。被災地の現状を聞くことで、今後起こるとされている南海大地震に備えて、自分がしなければならないことについて、深く考えるきっかけになりました。復興までの道りは長いと思います。遠い四国からではありますが、応援させていただきたいと思っています。

(\*^.\*^\*) 四国ブロックに続けと、中国ブロックの皆さんからも多くのメッセージが届きました。全国各地から頂戴しております温かなメッセージを皆様と分かち合いたく、なるべく速やかにお伝えして行きたいと思っています。しかしながら、この

「東北復興 PSW にゆうす」発行のタイミングと必ずしも一致しない場合もあります。ご理解をお願いいたします。

### ☆ 徳島県支部長 美馬ゆかり



2年前、メンバーを家に送り届けようとした時、ある職員から「沿岸部には行くな！」と厳しく止められました。遠く離れている徳島県沿岸部さえ、津波警報で沿岸部の道路は通行止め。もちろん公共機関もストップ。日本中パニック状態。離れているから大丈夫と、津波を甘くみていた恥かしい気持ちと、帰れなくなったメンバーの不安をどのように受け止めたらよいのか戸惑いながら一日一日と過ぎていったことを今も脳裏に焼き付いています。

「命があつてこそ支援ができる。命があつてこそ、明日を歩くことができる」ということを、被災地から教えてもらったように思います。復興にゆうすを通じて、一日一日元気になっていく東北に、遠い徳島からエールを送り続けたいです。

☆**広島県支部長 向井克仁**：東日本大震災から2年。この間、各方面で「復興」「つながり」「きずな」等色々な言葉や報道を目にしました。僅かの間に故郷の風景が一変すること、家も職場も生活文化や人の結び付き等、日常のありとあらゆることが変貌することは、とても一言では言い表せないことだと思います。現在も困難な状況にある方々の、一早い復興を心よりお祈り申し上げます。2013.3.11 遠く広島からですが、黙祷を捧げさせて頂きました。できないことも多いですが、この出来事を只々「風化させないこと」、「忘れないこと」を自身の中で念じ、今後も被災地の皆様にできる限りの応援ができればと思います。 ☆広島県花(モミジ)

#### ♥～復興支援活動募金報告～♥

28,658円 (H24年4月～H25年6月21日現在)  
皆様からお預かりした真心のこもった募金は、復興支援に携わる仲間への支援に役立ててまいります。引き続きご協力のほど、よろしくをお願いいたします。

#### ☎復興支援本部「ほっと phone」

TEL070-6450-2615 小関本部長代行が  
お応えします。お寄せいただいた声は、  
復興支援に生かしてまいります

#### ☆皆さんからのメッセージを募集します☆

本誌では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本誌へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面や協会ホームページにてご紹介させていただきます(原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載いたしません)。お届け先は下記復興支援本部へのFAXもしくはE-mailにてお願いいたします。

E-mail: office@japsw.or.jp \* 題名に「PSW にゆうすについて」とご記入をお願いします。

第6号 2013年7月15日発行

発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援本部  
〒160-0015 東京都新宿区大塚町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993  
復興支援本部 URL: <http://www.japsw.or.jp/f-honbu/>